

MED-361 @ 6,000 cP



安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠
改訂日: 2024 年 04 月 03 日

発行日: 2013 年 07 月 12 日

バージョン: 2.0

セクション 1: 化学物質特定情報および会社情報

製品特定情報

| | |
|--------|---------------------|
| 製品形態 | 物質 |
| 製品名 | MED-361 @ 6,000 cP |
| 化学名 | ジメチル(シロキサンおよびシリコーン) |
| CAS 番号 | 63148-62-9 |
| 別名 | シリコーン流体 |

該当純物質または混合物の関連特定用途および使用禁止用途

| | |
|-----------|--------|
| 物質/混合物の用途 | 業務用のみ |
| 使用上の制限 | 追加情報なし |

安全データシートの提供者に関する詳細

会社名

NuSil Technology LLC
1050 Cindy Lane
Carpinteria, California 93013
USA
(805) 684-8780

productstewardship@avantorsciencesgcc.com

www.nusil.com

緊急時の連絡先電話番号

緊急連絡先電話番号 800-424-9300 CHEMTREC (米国内)
+1 703-527-3887 CHEMTREC (国際および海上)
+(81)-345209637

セクション 2: 危険有害性情報

物質または混合物の分類

GHS-JP 分類

未分類

ラベル要素

該当する表示なし

その他の危険有害性

分類につながらないその他の危険有害性 知見なし。

セクション 3: 組成、成分情報

物質または混合物の識別

物質

| 名称 | 濃度 | 化学式 | 公報リストの参照番号 | | CAS 番号 |
|---------------------|------|------|------------|---------|------------|
| | | | CSCL 番号 | ISHL 番号 | |
| ジメチル(シロキサンおよびシリコーン) | 100% | 特記なし | (7)-476 | (7)-476 | 63148-62-9 |

MED-361 @ 6,000 cP

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

セクション 4: 応急措置

応急措置の説明

一般的な応急措置

意識のない場合は、口から何も与えてはならない。気分が悪い場合は、医師の診察を受ける(可能な場合は製品のラベルを提示する)。

吸入した場合の応急措置

症状が発生した場合: 屋外に退避し、暴露の疑いのある区域の換気を行う。呼吸困難が続く場合は、医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合の応急措置

汚染された衣類を脱ぐ。汚染された部位を水で5分以上洗い流す。刺激が生じた場合や、刺激が続く場合は、医師の診察、手当てを受ける。

眼に入った場合の応急措置

水で5分以上注意深く洗う。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。刺激が生じた場合や、刺激が続く場合は、医師の診察、手当てを受ける。

飲み込んだ場合の応急措置

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。医師による手当てを受けること。

応急処置をする者の保護措置と対策

適切な個人用保護具(PPE)を使用する。

最も重大な症状および影響(急性および遅延性)

症状/影響

通常の使用において予測される条件下では、重大な危険有害事象の発生は見込まれない。

吸入した場合の症状/影響

長時間暴露により、炎症を引き起こすおそれがある。

皮膚への接触後の症状/影響

長時間暴露により、皮膚の炎症を引き起こすおそれがある。

眼に入った場合の症状/影響

眼にごく軽度の刺激を引き起こすおそれがある。

飲み込んだ場合の症状/影響

飲み込むと有害な影響を及ぼすおそれがある。

慢性症状

知見なし。

即時の医療措置および特別な治療の対象となる症状

暴露した場合や暴露が懸念される場合には、医師の診察、手当てを受けること。医師の診察が必要な場合は、製品の容器やラベルを持参すること。

セクション 5: 火災時の措置

消火媒体

適切な消火媒体

水噴霧、水霧、二酸化炭素(CO₂)、耐アルコール性泡消火剤、粉末消火剤。

不適切な消火媒体

強力な放水を使用してはならない。強力な放水の使用により火災が拡大するおそれがある。

物質または混合物に由来する特別な危険有害性

火災危険性

可燃性ではないが、高温では燃焼するおそれがある。

爆発危険性

本製品には爆発性はない。

反応性

通常の条件下では有害な反応は発生しない。

消火時の注意事項

火災に関する予防措置

化学物質による火災の消火は慎重に行う。

消火時の指示

露出した容器の冷却には水噴霧または水霧を使用する。

消火時の防護

呼吸用保護具を含む適切な保護具を着用していない者は、火災発生エリアに立ち入ってはならない。

有害燃焼生成物

炭素酸化物(CO、CO₂)。ホルムアルデヒド。ケイ素酸化物。

MED-361 @ 6,000 cP

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

セクション 6: 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具、および緊急措置

| | |
|------------|---|
| 一般的な措置 | 眼、皮膚、衣類への長時間の接触は避けること。(蒸気、ミスト、スプレーの)吸入を避けること。 |
| 二次災害の防止策 | 必要なし。 |
| 緊急救援隊以外の人員 | |
| 保護具 | 適切な個人用保護具(PPE)を使用する。 |
| 緊急措置 | 不必要な人員を退避させる。 |
| 緊急対応にあたる人員 | |
| 保護具 | 浄化担当スタッフに適切な保護具を着用させる。 |
| 緊急措置 | 現場に到着したら、まず危険なものがないことを確認し、自分自身や人々の身の安全やその付近の安全を図り、状況が許し次第、訓練された人の支援を求める。当該領域の換気を行う。 |

環境に関する注意事項

下水および公共用水への流入を防止する。

封じ込めおよび浄化の方法・資材

| | |
|------|---|
| 封じ込め | 漏出した物質を防壁または吸収材で封じ込め、移動および下水や水路への流入を防止する。 |
| 浄化方法 | 漏出した物質を迅速に除去し、回収した物質は安全に廃棄する。不活性物質を用いて漏出した物質の吸収や封じ込めを行う。漏出した物質を廃棄に適した容器に移す。漏出の発生後に、監督官庁に通報する。 |

他のセクションの参照事項

暴露防止と保護措置についてはセクション 8 を、廃棄上の注意についてはセクション 13 を参照すること

セクション 7: 取扱いおよび保管上の注意

安全な取扱いに関する注意事項

| | |
|--------------------|---|
| 加工時の追加的有害危険性 | 温度が 150°C (300°F) を超えると分解し、ホルムアルデヒドの蒸気を発生する。 |
| 技術的対策 | 蒸気、ミスト、スプレーの吸入を避けること。 |
| 安全な取扱いに関する注意事項 | 飲食や喫煙の前、および作業場を離れる際には、手やその他の露出した部位を刺激性の少ない石鹼と水で洗浄する。眼、皮膚、衣類への長時間の接触は避けること。蒸気、ミスト、スプレーの吸入を避けること。 |
| 混触危険物質や混合物の取扱いを防止 | 次のものを避けること: 混触危険物質。 |
| 衛生対策 | 労働安全衛生手順に従って取り扱うこと。 |
| 局所および一般的な換気 | 十分な換気を確保する。 |
| 安全な保管の条件(混触危険性を含む) | |
| 技術的対策 | 適用される規則を遵守する。 |
| 保管条件 | 使用していない場合は、容器を閉めておく。乾燥した涼しい場所に保管すること。直射日光、極端な高温または低温、混触危険物質を避けて維持/保管する。 |
| 混触危険物質 | 強酸、強塩基、強酸化剤。 |
| 特定の最終用途 | |
| 業務用のみ | |

MED-361 @ 6,000 cP

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

セクション 8: 暴露防止および保護措置

管理基準

追加情報なし

生物学的限界

追加情報なし

暴露防止

適切な工学的管理

暴露の危険性のある区域の近くに、目の洗浄および身体洗浄に適した設備を設置しなければならない。特に狭いエリアでは、十分な換気を確保すること。国/地方公共団体の規則を確実に遵守する。

個人用保護具

手袋。保護衣。保護ゴーグル。



保護衣の素材

耐化学物質性の素材および繊維。

手の保護

保護手袋を着用すること。

眼および顔面の保護

化学薬品対応の安全ゴーグル。

皮膚および身体の保護

適切な保護衣を着用すること。

呼吸器系の保護

暴露限界値を超えるか、呼吸器への刺激が発生した場合は、認証済みの呼吸用保護具を着用する必要がある。換気が不十分な場合や、酸素不足、または暴露レベルが不明な場合は、認証済みの呼吸用保護具を着用すること。

その他の情報

本製品の使用時には飲食または喫煙をしないこと。

セクション 9: 物理的および化学的性質

基本的な物理的・化学的性質に関する情報

物理状態

液体

外観

無色

臭い

無臭

臭いの閾値

データなし

pH

データなし

蒸発速度

データなし

融点

データなし

凝固点

データなし

沸点

データなし

引火点

135°C (275°F) 超

自然発火温度

データなし

分解温度

データなし

燃焼性

データなし

蒸気圧

データなし

相対蒸気密度 (@ 20°C)

データなし

密度

データなし

相対密度

0.97

溶解度

データなし

分配係数: N-オクタノール/水

データなし

粘度

データなし

爆発限界

データなし

MED-361 @ 6,000 cP

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

| | |
|------------------|-------|
| 粒子特性 | データなし |
| その他の情報 | |
| 揮発性有機化合物(VOC)の含量 | < 1% |

セクション 10: 安定性および反応性

反応性

通常の条件下では有害な反応は発生しない。

化学的安定性

推奨される取扱いおよび保管条件下にある場合は安定(セクション 7 を参照)。

有害反応の可能性

有害な重合は発生しない。

避けるべき条件

直射日光、極端な高温または低温、混触危険物質。

混触危険物質

強酸、強塩基、強酸化剤。

危険有害な分解生成物

熱分解により、以下を生成する可能性がある: 炭素酸化物(CO、CO₂)。ケイ素酸化物。温度が 150°C (300°F) を超えると分解し、ホルムアルデヒドの蒸気を発生する。ホルムアルデヒドは発がん性を持つ物質であり、皮膚および呼吸器官系に対して感作物質として作用する可能性がある。ホルムアルデヒドはまた、呼吸器および眼への刺激を引き起こす可能性がある。

セクション 11: 有害性情報

毒性影響に関する情報

| | |
|-----------|-----------------------------------|
| 考えられる暴露経路 | 眼への接触、経皮、経口摂取、吸入 |
| 急性毒性(経口) | 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。 |
| 急性毒性(経皮) | 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。 |
| 急性毒性(吸入) | 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。 |

ジメチル(シロキサンおよびシリコーン)(63148-62-9)

| | |
|-----------------------|-----------------------------------|
| LD50 経口 ラット | 24 g/kg 超(出典:NLM_CIP) |
| 皮膚腐食性/刺激性 | 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。 |
| 眼に対する重篤な損傷性/刺激性 | 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。 |
| 呼吸器官系または皮膚感作性 | 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。 |
| 生殖細胞変異原性 | 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。 |
| 発がん性 | 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。 |
| 生殖毒性 | 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。 |
| 特定標的臓器毒性(STOT) - 単回暴露 | 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。 |
| 特定標的臓器毒性(STOT) - 反復暴露 | 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。 |
| 吸引性呼吸器有害性 | 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。 |

MED-361 @ 6,000 cP

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

セクション 12: 環境影響情報

毒性

水生環境有害性、短期(急性) 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。

水生環境有害性、長期(慢性) 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。

残留性および分解性

MED-361 @ 6,000 cP(63148-62-9)

| | |
|-----------|-----------|
| 残留性および分解性 | 立証されていない。 |
|-----------|-----------|

生物蓄積性の可能性

MED-361 @ 6,000 cP(63148-62-9)

| | |
|-----------|-----------|
| 生物蓄積性の可能性 | 立証されていない。 |
|-----------|-----------|

土壌中の移動性

追加情報なし

その他の有害な影響

オゾン層に有害

未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。

その他の情報

環境への放出を避けること。

セクション 13: 廃棄上の注意

廃棄物処理方法

推奨される廃棄方法

内容物/容器は国際/国/都道府県/市区町村の規則に従って廃棄すること。

生態系 - 廃棄物質

環境への放出を避けること。

セクション 14: 輸送上の注意

この輸送上の説明は、SDS の起草時点で想定された内容に従って記述されており、基準となる変数が、SDS が発行された時点で既知であった、あるいは、未知であったため、変動することがある。

UNRTDG に準拠

輸送規制なし

IATA に準拠

輸送規制なし

IMDG/IMO に準拠

輸送規制なし

その他の情報

その他の情報 補足情報なし。

セクション 15: 適用法令

適用法令

ジメチル(シロキサンおよびシリコーン)(63148-62-9)

| | |
|----------------------|--------------------------------------|
| 海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律 | 有害液体物質-Y類(同法第3条第3号、施行令第1条の2、別表第1第2号) |
|----------------------|--------------------------------------|

規制参考情報

米国有害物質規制法(TSCA)インベントリーに収載 - ステータス: 活性

カナダ DSL(国内物質リスト)に収載

MED-361 @ 6,000 cP

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

オーストラリア工業化学品導入機構 (AICIS インベントリー) で収載導入
PICCS (フィリピン化学品・化学物質インベントリー) に収載
日本の ENCS (化審法既存および新規化学物質) インベントリーに収載
KECL/KECI (韓国既存化学物質インベントリー) に収載
IECSC (中国で製造または輸入された現有化学物質名録) に収載
NZIoC (ニュージーランド化学物質インベントリー) に収載
INSQ (メキシコ国家化学物質インベントリー) に収載
TCSI (台湾化学物質インベントリー) に収載
NCI (ベトナム - 国家化学物質インベントリー) に収載
タイ既存化学物質インベントリー (DIW) に収載

セクション 16: その他の情報

作成日または最新改訂日

2024 年 04 月 03 日

参考文献

本書は日本の危険有害性周知基準である安全データシート (SDS) の要件 JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準じて作成された。

データソース略語の用語集

ATSDR: 有害物質・疾病登録庁 (米国保健福祉省)
AU_WES: オーストラリア WES
CHEMVIEW: ChemView (米国環境保護庁)
EC_RAR: 欧州委員会更新評価報告書
EC_SCOEL: 欧州委員会職業暴露限界に関する科学委員会
ECETOC: 欧州化学物質生態毒性・毒性センター
ECHA_API: 欧州化学品庁 API
ECHA_RAC: ECHA リスク評価委員会
EFSA: 欧州食品安全機関
EPA: 米国環境保護庁
EPA_AEGL: 急性暴露ガイドラインレベル (米国環境保護庁)
EPA_FIFRA: 連邦殺虫剤・殺菌剤・殺鼠剤法再登録資格決定 (米国環境保護庁)
EPA_HPVC: 大量生産化学物質 (米国環境保護庁)
EPA_TRED: 許容度再評価の適格性判断に関するリスク評価 (米国環境保護庁)
EU_CLH: 欧州連合調和分類およびラベリング提案
EU_RAR: 欧州連合リスク評価書

FOOD_JOURN: Food Research Journal (1956 年)
IARC: 国際がん研究機関
IDLH: 米国国立労働安全衛生研究所の急性の毒性限度 (「生命または健康に対する差し迫った危険」の値プロファイル)
IUCLID: 国際統一化学情報データベース
JAPAN_GHS: 分類データに関する日本の GHS 基準
JP_J-CHECK: 日本 J-Check
KR_NIER: 韓国国立環境科学院の評価
NICNAS: オーストラリア国家工業化学品届出審査機構
NIOSH: 米国労働安全衛生研究所 (米国保健福祉省)
NLM_CIP: 米国国立医学図書館 ChemIDplus データベース
NLM_HSD: 米国国立医学図書館有害物質データバンク
NLM_PUBMED: 米国国立医学図書館 PubMed データベース
NTP: 国家毒性プログラム
NZ_CCID: ニュージーランド化学物質分類および情報データベース
OECD_EHSP: 環境・健康・安全に関する出版物 (経済協力開発機構)
OECD_SIDS: スクリーニング情報データセット (経済協力開発機構)
WHO: 世界保健機関

本安全データシート (SDS) の情報は、本 SDS 記載の日付時点で正確であると考えられるデータに基づいて作成されたものである。法の許容する最大限の範囲で、NuSil Technology, LLC およびその関連会社 (「NuSil」) は、本書記載の情報 (正確さ、完全性、目的または使用の適宜性、商品性、不侵害、性能、安全性、適合性および安定性に関するものを含むがこれらに限定されない) に関するすべての表明および保証を明示的に排除する。本 SDS は、適切に訓練されたスタッフが製品を取扱う上での適切な使用方法、取扱い、保管および廃棄の方法に関してのガイドとなることを目的としているが、すべてを網羅したものではない。NuSil 製品のユーザーは、その目的と使用内容に応じて、各製品および製品の組み合わせの安全性、適合性、適切な使用、取扱い、保管および廃棄について、ユーザー自身でテストを行い、判断することが推奨される。法の許容する最大限の範囲で NuSil は、いかなる状況においても、利益の損失、風評被害、製品の回収または事業の中断を含むいかなる特別損害、間接損害、偶発的損害、懲罰的損害または派生的損害についても責任を負わないものとし、NuSil の製品を購入したユーザーは、そのことに同意するものとする。

日本 GHS SDS